

3 学習指導要領を踏まえた学習評価について

学習評価は、学校における教育活動に関し、児童生徒の学習状況を評価するものです。「児童生徒にどういった力が身に付いたか」という学習の成果を的確に捉え、教師が指導の改善を図るとともに、児童生徒自身が自らの学習を振り返って次の学習に向かうことができるようにするためにも、学習評価の在り方は重要であり、教育課程や学習・指導方法の改善と一貫性のある取組を進めることが求められています。

I カリキュラム・マネジメントの一環としての指導と評価

日々の授業において、児童生徒の学習状況を評価し、その結果を児童生徒の学習や教師による指導の改善、教育課程の改善等に生かすことで、学校全体として組織的かつ計画的に教育活動の質の向上を図ることが求められています。

「学習指導」と「学習評価」は学校の教育活動の根幹であり、「カリキュラム・マネジメント」の中核的な役割を担っています。

II 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善と評価

指導と評価の一体化を図るためには、児童生徒一人一人の学習の成立を促すための評価という視点を一層重視し、教師が指導のねらいに応じて授業の中での児童生徒の学びを振り返り、学習や指導の改善に生かしていくことが大切です。

「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善を通して、各教科等における資質・能力を確実に育成する上で、「学習評価」は重要な役割を担っています。

指導と評価の一体化のための学習評価の充実

I 児童生徒が学習したことの意義や価値を実感できるようにする。

○児童生徒が自分の目標や課題をもって学習を進めていくことができるよう、児童生徒のよい点や進歩の状況などを積極的に評価することが大切です。

○教師による評価とともに、児童生徒による学習活動としての相互評価や自己評価などを工夫すること、児童生徒が学習の見通しを立てたり学習したことを振り返ったりして、自身の学びや変容を自覚できる場面を設定することが大切です。

II 各教科等の目標の実現に向けた学習状況を把握し、資質・能力の育成に生かす。

○単元や題材など内容や時間のまとまりを見通しながら評価の場面や方法を工夫し、学習の適切な場面で評価を行う必要があります。

○学習の成果だけでなく、学習の過程を一層重視し、学年や学期にわたって児童生徒がどれだけ成長したかという視点を大切にすることが重要です。

○単元や題材の中のどの場面で、どのような方法で、児童生徒について観点別評価をするための記録を取るかを明確にし、指導と評価の計画に位置付けて評価を進めていくことが大切です。

III 学習評価の妥当性や信頼性が高められるようにする。

○学校として次のことに組織的かつ計画的に取り組むことが大切です。

- ・評価規準や評価方法等について、事前に教師同士で検討するなどして明確にすること。
- ・評価に関する実践事例を蓄積し共有していくこと。
- ・評価結果についての検討を通じて、評価に係る教師の力量の向上を図ること。

学習評価の充実に向けて、* 授業研究における指導案検討会や研究協議会の際に、単元（題材）の指導と評価の計画が単元（題材）の目標や評価規準を踏まえたものになっているか、評価場面や評価方法等が適切であるかなどについて検討することも有効です。

* 授業研究：指導案検討会や模擬授業等の協働的な授業づくり、授業参観、研究協議会を核とする年間を通した共同研究

